



「タイムシップ」で地元の歴史たどる

古代から製塩盛ん 地名に



森谷館長（左端）の説明を聞く4人のこども記者

宮城県塩釜市塩釜二小のこども記者、郷右近篤生さん(11)、佐々木美桜さん(10)、佐藤龍之介さん(10)、菅原立真さん(10)の4人は、同市市民図書館の一角にある「タイムシップ塩釜」を訪れました。

(1面に関連記事)

塩釜石でできた入り口を抜けると、古代から現代までの資料90点が並び、塩釜の歴史を学ぶことができます。

奈良・平安時代、陸奥国府多賀城から人々が往来し、近くにある塩釜は食料などを運ぶ港として重要な役割を担いました。江戸時代は伊達家の保護を受けて栄えたそう。

地名の由来は「塩を作る竈」。古代から製塩が盛んで、地名に残ったとされています。こども記者は「竈」の書き順を示す資料を見ながら、何度も練習しました。

明治時代、浦戸諸島を基地に北洋でラッコ漁が盛んになります。米国アラスカ州で1909年、警備船に捕らわれ、その後沈没した帆船の開盛丸から見つかった遺留品の展示もあり、こども記者は「知らなかった」と驚いた様子でした。

「タイムシップの魅力は？」。こども記者に問われ、森谷功館長は「コンパクトな空間の中で、塩釜の変遷を知ることができる。名前の通り、時間の船に乗って歴史をたどる感覚を味わえます」と話しました。

取材を終えて

昔はラッコを水揚げ 佐藤龍之介さん



市場でたくさんの魚が売られていて、マグロが人気でした。お店が減っている現状を知ることができました。

市場やタイムシップの取材を通し、昔は塩釜から出港した船がラッコを取っていたことを知り、とても驚きました。

SNSで食材PRを 郷右近篤生さん



塩釜はマグロが有名なので、市場の店が多いです。実際に見学すると、とてもおいしそうでした。塩釜は魅力的な食材が多いので、SNSなどでどんどんPRしてほしいです。塩釜の釜は「竈」と書くことを初めて知り、勉強になりました。

「竈」の書き順が心に 菅原立真さん



タイムシップの資料は市民らみんなが協力して集められました。「竈」の書き順を学んだことが心に残りました。

塩釜のマグロが有名になったのは最近だと知り、驚きました。みんなで楽しく取材できてよかったです。

市場の頑張り、すてき 佐々木美桜さん



市場で働く人は売るだけでなく、市場のためにいろんな工夫をしています。頑張る姿がすてきだなと思いました。タイムシップで塩釜の歴史を詳しく教えてもらい面白かったです。多くの人を訪れ、塩釜をもっと知ってくれたらうれしいです。